

くずし字入門講座 No.3 テーマ「数字・度量衡」 第2問 解説と読解例

⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	尺貫法の単位（長さ） 1 厘 ^{りん} = 0.30303 ミリ 1 分 ^{ぶん} = 10 厘 = 3.0303 ミリ 1 寸 ^{すん} = 10 分 = 3.0303 センチ 1 尺 ^{しゃく} = 10 寸 = 30.303 センチ 1 丈 ^{じょう} = 10 尺 = 3.0303 メートル 尺貫法の単位（重さ） 1 厘 ^{りん} = 3.75 ミリグラム 1 分 ^{ぶん} = 10 厘 = 0.375 グラム 1 匁 ^{もんめ} = 10 分 = 3.75 グラム 1 貫 ^{かん} = 1,000 匁 = 3.75 キロ 1 斤 ^{しん} = 160 匁 = 600 グラム
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
ウデギ	キヤキ	杉柱	〇	〃	〃	松	鴨居	松	一ノシ打釘	四寸	一	一	一	
四寸五分	三寸五分二仕上	四寸角仕上	〃	壹尺三寸	〃	四寸二分二仕上	貳寸	四寸二仕上	八分	五百目	壹貫	壹貫	壹貫	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	長壹丈壹尺四寸二丁					
	三三寸	貳間貳尺	〃	貳間貳尺	〃	貳間貳尺	〃	〃	長壹丈壹尺四寸二丁					
	三丁	壹本	〃	貳丁	〃	貳丁	一丁	一丁						

(①～⑭の丸数字は首部から何行目かを表します。)

今回の課題は設計図ですので、全体を通して数字や単位を表す漢字が多いのが特徴です。また、何回も同じ字が登場しているため、一度出てきた字の特徴を覚えておいて解読に役立てるといったテクニックをどんどん活用しましょう。

①-④ 「**壹**」は以前の問題で登場しているので、そこで覚えていれば読めないことはないでしょう。それより「**貫**」の方が難しいでしょう。「**メ**」を代用しているのですが、ここでそのまま「**メ**」にしてしまうと意味が通じませんから、何かしらの単位と予想して解読しましょう。「**貫目**」を聞いたことがあるのであれば、「**目**」があるのもヒントになると思います。

小さく書かれています、**「五」**を見落とさないようにしてください。典型的なくずし方になっていますし、以前の問題でも登場しています。「**百**」については、③にも登場しており、「一」+「白」=「百」と考えて解けるでしょう。

尺貫法では、1貫=1,000匁、3.75kgです。意外かもしれませんが、1891年(明治24)～1958年(昭和33)まで商取引で用いられていました。また、匁は略して目ということもありますので、ここでは目=匁ということになります。

銭貨を数える単位では、1貫=銭1,000文です。また、明治時代では10銭=1貫と称されていたこともありましたが。

⑤-⑦ 「**丈**」は尺貫法における長さの単位の1つで、1丈=10尺=約3メートルです。

「**壹**」や「**貳**」については、以前の問題で登場しており、「見たことあるぞ!」と気づくことができるはずですが、もし気づけなくても、ここには数字が入るはずなので、大字の可能性も考えて辞書をめぐりましょう。

「**丁**」ですが、うっかり「**本**」としないでください。「**丁**」は「**本**」と同じように使われており、木材の単位の1つです。

鴨居とは引戸や引違障子等を装置するための溝をつけた横木のうち、上部のものをいいます。下部のものを敷居といいます。

⑧-⑩ 「**間**」が難関でしょう。初見では門構えの字と想像するのは困難です。このような場合、くずし字の辞書には部首ごとのくずし字の例が掲載されているものがありますから、そこから似たものはないかを探しましょう。また、門構えはこのようなくずし字のパターンですので、「**間**」が読めるようになれば、「**関**」「**門**」なども解読できます。

間は尺貫法における長さの単位の1つです。1間=6尺=約1.8メートルです。間はもともと単位ではなく、建物の柱間を意味していました。そのため、一定の長さをとることはありませんでした。土地の場合、時の政権の方針で伸縮されることがあったようです。1間=6尺が定着したのは江戸時代ですが、実際に用いる間尺はまちまちでした。1891年(明治24)、量衡法によって正式に1間=6尺と定められました。

⑪ 「**本**」が難しいでしょうか。他は「**丁**」になっているのに対し、これだけ形状が異なっていますから、「**丁**」ではないと気付けるでしょう。形状を検察すると「**木**」に似ていますから、そこから連想しましょう。書き順もヒントになっています。

⑫-⑭ 幸い(?) これまでに登場した字ばかりですので、同じ形のものは同じ字と考えて解いていきましょう。腕木とは垂木・庇などを支えるために、柱または梁などから横に突き出させた横木のことです。